

ドル円週足	買いブレークアウトにて中期強気転換。
ユーロ円週足	買いストップ到達、中期強気転換。
豪ドル米ドル週足	買いシグナル点灯、中期強気転換。
ポンド円週足	買いシグナル点灯、買いストップ到達、中期強気転換。
豪ドル円週足	買いブレークアウト発生、中期強気転換。

◎ 先週までの直近シグナル・セレクション：

ドル円3月足	買いストップ到達、長期強気追認中（月末確定）
ポンド円週足	買いシグナル点灯、中期強気転換。
ユーロ円日足	買いブレークアウト発生、短期強気追認（3月7日）
GOLD日足	買いシグナル点灯（3月7日）
ユーロポンド日足	買いシグナル点灯（3月4日）
ドル円日足	買いブレークアウト発生、買いシグナル点灯、短期強気転換（3月1日）

◎ 長期シグナル・セレクション：

ドル円3月足	買いストップ到達、長期強気追認中（月末確定）
--------	------------------------

昨年8～9月以降、円売り、ユーロ買い、ドル売り長期シグナルを観測してきたが、さらに2月には長期ドル買いを示唆するシグナルとストップ到達が次の様に発生した。

>今年度2月新傾向：一部通貨に長期ドル買いが浮上中。

ドルインデックス2月足	買いストップ到達、長期強気転換。
ポンドドル2月足	売りストップ到達、長期弱気追認。
豪ドル米ドル2月足	売りシグナル点灯、長期弱気転換。
ドルカナダ2月足	買いストップ到達、長期強気転換。
GOLD2月足	売りストップ到達、長期弱気追認。

>昨年度、円売り：円売りシグナル点灯ないしは売りストップにて長期弱気転換。

豪ドル円12月足買いストップ、ドル円10月足買いストップ、ユーロ円10月足買いシグナル、
ユーロ円9月足買いストップ。カナダ円9月足買いシグナル、ポンド円9月足買いシグナル。

>昨年度、ドル売り：米ドル売りシグナル点灯ないしは売りストップにて長期弱気転換。

豪ドル米ドル12月足買いストップ、ユーロドル9月足買いストップ、ポンドドル9月足買いシグナル、
ドルスイス9月足売りシグナル、ドルカナダ9月足売りストップ、ドルインデックス8月足。

>昨年度、ユーロ買い：買いシグナル点灯ないしは買いストップにて長期強気転換。

ユーロドル9月足買いストップ、ユーロポンド9月足買いシグナル、ユーロスイス8月足買いストップ、
ドルインデックス8月足売りストップ。

>ゴールドは弱い：

GOLD12月足 売りシグナル点灯、長期弱気転換。

NY市場の終値

ドル円	95.98	<	94.83	<	94.06	<	93.29	<	93.49	<	93.60	<	92.55
-----	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------

● 日足短期予想：

昨日はシグナル点灯なし。95.92買いブレークアウト発生、短期強気追認。
3月1日93.12買いブレークアウトおよび買いシグナル点灯より短期強気中。

昨日のドル円は『今夜の雇用統計などが切っ掛けとなるか、材料無しのテクニカル上昇で上る可能性』の続騰予想で始まり、雇用統計後の大急騰で決着が付いた。

また中期買いストップ95.35を切り上げ、中期週足観測も強気に転換した。

月足の買いストップ94.94には木曜日に到達し長期強気観測を追認中だった。
心理的に買い上げやすい条件が揃っていたわけである。

今週は高値更新はあると思われるが、ボラティリティーの急激な高騰に対する警戒感も有り、それ程大きく伸びる事は無いと推測。

金曜日は雇用統計までに充分上昇しており、統計発表後の急騰幅はその後利食いで打ち消され、引け値は雇用統計直前の水準だった。

本日の売りストップ94.73。（買いストップ97.23）

● 超短期取引（逆張り）：

昨日金曜日は無し。

本日月曜日は無し。

● 週足中期予想：

先週はシグナル点灯なし。95.35買いブレークアウト発生。

2月22日週93.43売りシグナルより中期弱気中だったが、先週3月8日週95.35買いブレークアウトにて中期強気転換。

この2週間のドル円の上下動の激しさは凄まじく、2週間前の驚がく的大暴落安値の90.85円から昨日雇用統計後の瞬間急騰96.60高値まで6円25銭のレンジ幅で乱高下した。

結局は長期強気を追認したので長期的には問題が無いとも言えるが、短期中期の取引者にはトラウマの大きい相場だったようだ。

2週間連続で相場がこれだけ上下に振れたのは大震災直後の2週間以来で、当時もレンジ系のオプションで顧客が壊滅し、ノックダウンしたFX証券会社があったが、今回も相当な傷を残したかもしれない。

先週は買いストップ到達して中期強気に復帰した。これだけ急騰すると翌週は高値を更新するものの小幅である事が多く、今週も大幅の続伸とはならないだろう。

今週の売りストップ91.61。（買いストップ99.20）

● 月足長期予想：

長期月足 2月はシグナル点灯なし。ブレークアウトなし。

10月79.40買いブレークアウトより長期強気中。

3月足は94.94買いストップに到達し、長期強気追認中（月末確定）。

記録破りの上昇特性で94.77円まで駆け上ったドル円は2月足が重たく調整風に小幅の上昇で引けた。

この2月レンジの全ては2月25日だけで形成されたものである。乱高下の激しさを物語る。

このトラウマを抱えて始まった先週の3月足は週後半に上昇傾向が強まり、ドル高、円安、ユーロ安傾向が浮上していた。

これが正しかったのだと止めを刺したのが金曜日の雇用統計。瞬間的なドル全面買いにドル円は急騰96円台に乗せた。

長期強気は有効。今年のピークは100円前後との見通しも変わり無し。

ピークの時期であるが5月か9月かのどちらかになると推測。先週はこの見通しを強めるような展開だった。

初期的な（2013年初頭現在）超長期予想（今後5年間）：

1) 2013年の長期ピークは100円近辺（+-5円誤差）。

そこから一度10円程度の幅で大調整。

2) その調整底入れ水準からは長期強気に転じて100円まで急速に上昇。

3) その後減速して上昇し106円に到達。到達する時期は2015年から2016年頃。

4) 106円前後で大天井を付けその後3～5年間本格長期弱気。

次の長期大底は2018～2021の間。

3月の売りストップ90.16。（買いストップ94.94、既に到達）

ユーロ円 124.77<124.31<122.00<121.72<121.76<121.87

● 日足短期予想：

昨日はシグナル点灯なし。ブレークアウト無し。
2月25日119.97買いシグナルより短期強気中。

ユーロ円日足は25日の日足大暴落が買いシグナル。その後も一度買いシグナルが点灯して強気中である。

先週は木曜日にドル円とユーロドルの上昇が有り、ユーロ円は急騰した。
しかし金曜日は全く異なり、ドル円は続騰したが、ユーロドルは暴落。
結局ユーロ円も当日上昇の大部分を帳消しにして終了した。
円安相場と言うよりはドル全面高相場に付随する円安相場だった。
この先も非常に分かり難いユーロの上下の影響が大きく、ユーロ円は少し難しくなりそうである。

本日の売りストップは122.27。（買いストップは127.30）

● 超短期取引（逆張り）：

昨日金曜日は無し。

本日月曜日は無し。

● 週足中期予想：

先週はシグナル点灯なし。125.62買いストップ到達。
2月15日週124.95売りシグナルより中期弱気中だったが、先週3月8日週125.62買いストップに到達し中期強気転換。

ユーロ円及びクロス円は概して大暴落が押し目と成る事が多いが、実際に最適な押し目買いを実行するのは実経験からも大変な技と熟練を要する。

結局日足に買いシグナルが点灯したのみで、中期買いシグナルは先週点灯しなかった。
下げるのも早かったが買い戻しの速度も異例に速かった。

先週は、ドル円が更に加速して上昇する反面、ユーロドルは全ての上昇幅を失って終了。ユーロ円は今週難しい相場になりそうである。

今週の売りストップ119.64。（買いストップ128.60）

●● 月足長期予想：

2月はシグナル点灯なし。ブレークアウトなし。

9月102.81買いストップより長期強気中。

ユーロ円2月足は調整下落して終了。

1週間を経過した3月足は逆に上昇して2月の前月比下落分の全てを取り返した。

2月足に対して3月足は孕み足を形成中。

月足に長期売りシグナルが点灯するのは早くても今後3ヶ月以降と推計。

それまで長期強気は有効である。

2月は押し目買いのチャンスだったが回復の足が非常に速く、日足の買いシグナル以外には買いシグナルの点灯は無かった。

ユーロ円中期週足には数週間以内に買いシグナル点灯の見込みであるが遅すぎるかもしれない。

5年間の超長期予想：円安だけでなくユーロの長期的上昇との相乗効果でユーロ円は記録的に上昇する見通し。

- 1) ユーロ円は昨年7月に超長期大底を入れた。
- 2) 早ければ2015年頃に160円で大天井を付ける。
- 3) 遅ければ2017年頃に180円で大天井を付ける。
- 4) その後もユーロ高は2024年頃まで続くが、一方円は2015～17年頃から円高に転じるためにユーロ円は長期下落を始める。
通常ユーロの上昇率よりも円の円高上昇率のほうが上回るのが原因。

3月の売りストップ113.68（買いストップ128.06）

ユーロドル 1.3005<1.3108<1.2967<1.3052<1.3027<1.3021

●● 短期日足予想：

昨日はシグナル点灯なし。ブレークアウトなし。

2月7日1.3091買いブレークアウトより短期強気中。

先週のユーロドル日足は連日先広がり拡大乱高下の連続だった。

ユーロに対する市場の迷いがそのまま顕わになった週だった。

今週初は雇用統計の折り込みが無かったアジア時間での再度の安値更新にはなりやすく、その後の反発力を見極めるような展開だろう。

ユーロは対米ドルとカナダドルでオカシイ事になっているが、その他のユーロクロスでは先週は概して好調だった。

全面的に調整明けしたのではないかと思わせる展開だった。

対ドルでセルオフするには全てのユーロクロスに変調が現れる方が理解しやすい。

ユーロドルに関しては、『短期反騰が失敗するかもしれないとの危惧』があった。難しい相場になりそうだ。

本日の売りストップ1.2869。（買いストップ1.3141）

● 超短期取引（逆張り）：

昨日金曜日は無し。

本日月曜日は無し。

● 中期週足予想：

先週はシグナル点灯なし。ブレークアウトなし。

2月8日週1.3367売りシグナルより中期弱気中。

先週のユーロドル週足は前週比あまり変わらず終了。レンジ水準は下落だった。

先週全レンジは金曜日1日で形成されたものである。
つまり米雇用統計後の全面ドル買いに因るユーロノックダウンだった。

今週の日足は非常に難しい展開となろう。週足チャート（上図）の移動平均割り込みがかなり負担となっており、この先の大目標は11月16日週1.2661最安値である。

しかし筆者の観測では1.29に強いサポートの可能性があり、1.26台到達は難しいかもしれない。

また既に底入れ分岐圏に到達しており、上昇すれば中期買いシグナルも点灯しやすい。底入れかセルオフか、重要な分かれ道を形成中である。

今週の買いストップ1.3141。（売りストップ1.2869）

●● 長期月足予想：

長期月足2月はシグナル点灯なし。ブレークアウト無し。
9月1.3034買いストップより長期強気中。

ユーロドル2月足は寄り付きの1日が最高値となりその後は下げ続けて1月上昇幅の大半を失って、2月レンジの安値寄りに引けた。
レンジは拡大足となり1月高値を切り上げ後、1月安値を切り下げてそこで終了した。

始まって6営業日の3月足は先週金曜日の日足拡大レンジ1日がそのまま3月足を形成。

雇用統計に絡む金曜日の暴落は確かに強烈な印象を残した。

僅かながら今年の最安値を更新しそこで先週は終了。

先週は特にドル全面高が鮮明に浮上。これは2月終了時に指摘した最新傾向だった。

下落で始まった3月足は直ちに上昇を開始しないと、本格的な押し目形成になるだろう。

2月にはポンド、豪ドル、カナダが対米ドルで長期弱気に転換した。

ドルインデックスも長期強気転換した。

ユーロドルは長期上昇して半年くらいで一度本格的に調整する事例が多い。今がその時期に当たる。

2024年までの超長期予想：

- 1) ユーロドルは超長期の底入れをした可能性が高いがドル円やユーロドルほど明瞭ではない。
- 2) 控えめな分析では2024年頃までかけて1.7500ドル近辺で歴史的周期大天井を付ける。
- 3) 楽観的な分析では2024年頃に2.0000ドル近辺で歴史的周期大天井を付ける。
- 4) そこに至るまでは乱高下気味の激しい上下動を伴い、長期強気観が一時的に後退してしまうこともありうる。にもかかわらず基本的なユーロ長期強気が変わると言う事は無いだろう。

3月の売りストップ1.2366。（買いストップ1.3744）

以上